



志望校を決めた時期はいつ頃だった？

児嶋： 高2の夏に、海南高校で開催された和歌山大学の説明会で「社会インフォマティクス学環」が新設されるというのを聞いて。将来は起業したいとずっと思っていたから「企業や自治体と連携して経営者を育てる学部」という話を聞いて、これ、俺のためのとこやん！と思って(笑) 起業するためには、お金も力も立場も必要で。あれもしたい、これもしたい、というのを考えるのが楽しいし、将来的にはそれを実現して、手に入ったお金でまた新しいことをして…ロマンを追求したいというか(笑)

高1・高2の頃を振り返って。どんな生活を？

児嶋： 普段は、部活一色でした。ほんまに頑張った！高1の時から試合も出してもらってたから、放課後の練習はもちろん朝練もちゃんとして行って。勉強はテスト期間に入ってから、という感じ。とりあえず「評定は4以上」を目標に。もともと指定校推薦は考えてなかったけど、もし行きたいって思った時でも「4」あったら出せる大学もあるし、できれば4.5ぐらいを狙ってできるだけ高い評定をとっておこう、とは思ってた。最終的に4.2やったけど。最初から指定校狙いの友達もサッカー部にいたし、海南はやっぱり指定校で合格する子が多いし。

青石： テスト期間はどこで勉強していたの？

児嶋： 1年の時は…友達と図書館に行って遊びまくってた！(笑) ACのチャレ勉には来てたけど。だから評定は3.9しかなかった。2年になってかなり反省して、ACの自習室に行って勉強するようにしました。1人でも勉強するよ

うにしたから、点数が上がった。

青石： 文系、理系の選択は？

児嶋： 理系は「作る側の立場」というイメージがあって、なんとなく「理系かっこいい！」と思って。大失敗やったけど…(笑) まだその時は、インフォマのことは知らなかった。兄が理系、ということもあったのかも。

受験勉強を始めようと思ったのはいつ頃？

児嶋： 高2の終わりぐらいに、友達同士でターゲットを覚えよう！っていうブームが来て。で、俺は途中でやめたんやけど…共通テストで成功した子たちは、ちゃんとそこで覚えてた。制服の右ポケットにはいつも入れてたんやけどな。久保田先生の授業でも、みんなはやってた…。俺は…(笑) そこでミスったな…！学校でも塾でも、先輩たちも、みんな「単語だけはやっておけ」って言ってたけど…その時は気づいてなかったな…。気付いてたら、絶対もっと点数取ってたわ！受験が終わってから気付いた。

受験勉強を始めて、しんどかった時期は？

児嶋： 2回あって。1番しんどかったのは部活を引退してから共通テストまでの期間。高3の11月に引退して。やらなあかんことが多すぎて。全科目やろうとするけど、そもそも時間がないし、まったく伸びないし。近づくにつれて、どんどん不安になって。俺は得意科目がなかったからほんまに不安やった。得意科目は作っておくべき。英語はまだ他の科目に比べると取れていたこともあったけど、単語も文法も“基礎”を固



進学先

和歌山大学

社会インフォマティクス学環

児嶋 完太さん

海南高校
サッカー部 キャプテン

インタビュアー

青石 千映
(AC 海南駅前校カウンセリングスタッフ)

めてないままノリだけでいったから…ずっと自信はなかったな。もっと基礎を固めやんとあかんかったな！！(笑)

青石： ずっと言い続けてたつもりやったんやけどな…。

児嶋： あと1回は夏休み。11月の選手権大会まで部活を続ける、って決めたくど、練習試合、静岡遠征、キャンプ、大会って、部活がしんどすぎて、勉強なんかする時間がなかった。夏休みやから周りの子は当然みんな勉強してるし。自分の中で『キャプテンの責任感』と『困ったときは苦しい道を選べ』というモットーがあったから続けたけど、もうこれ無理やん！って何回も思った。ガチで夏はきつかったな。

最後の大会が終わって、やっと受験勉強に集中できる！と思ったら…

青石： 夏の間も、練習終わりは毎日塾に来て勉強しようとしてたけどな！最後の大会が終わって引退して。やっと受験勉強に専念できる！と思った矢先インフルエンザでダウン。

児嶋： ここからやるぞ！ってタイミングやったのにな(笑)

青石： 復活した直後に、公募推薦の京都産業大学の試験で、和大的推薦に向けての志望理由書も作り始めて。

児嶋： やりたいことが絶対できるという自信と、自分は絶対この学部に必要な、この学部が一番合ってる！という思いがあったから、志望理由書でもやりきった感があったかな。それに加えて、高校生活で力を入れてたことはやっぱり部活。部活はガチで真面目にやってたから、面接で話すこともほとんど部活のことで。これだけ必死にやったことを無駄にしたくない、これを武器に戦いたい、と思って。俺の場合はそれが部活やったけど、何に対しても必死になった経験というのは絶対武器になるから。せっかくやるならマジで本気でやった方がいいと思う。

青石： 勉強についてはどう？

児嶋： 妥協しない、まわりに流されない、ということは意識してた。仲のいい友達やっただとしても、勉強面では一線を引いてたことはあったかも。実は、高校に入学してすぐに受ける模試で2位を取っていて。海南でサッカーをしたい、ということが海南高校を選んだ理由の1つやったから、『海南高校で上位をキープする』ということは親からも言われていて。それで天狗になってしまったからあかんかったんやけど…(笑)勉強の中身は、問題集は、難しすぎるものを選ばない方がいい、自分のレベルよりちょっと下のものの方がいいと思う。俺はだいぶ上のものを選んでやってしまってたけど…最初は楽しいけど、全部やり切れなかったから。そこも大失敗と思ってる。参考書や問題集を買ったなら、それをやり込むべき。

ACの授業はどうだった？ クラスライブ・サテラインについて。

児嶋： 山本先生(AC数学科)の授業が好きでした。俺は仕組みとか公式の成り立ちとか、そういうのがめちゃくちゃ気になるタイプで。山本先生はそういう部分を重点的にめちゃくちゃ丁寧に説明してくれたから。それに、俺がそういうことにこだわるタイプ、ということを知ってくれてたし、『これ覚える』『覚えるだけ』みたいな感じじゃなくて、なぜそうなるのか、なぜそれ

を使うのか、というのをちゃんと教えてくれたのがよかった。だから、自分で勉強していてもわからない問題をためておいて、山本先生が海南に来る日に質問しまくってたな。

青石： サテラインの授業は？

児嶋： 土屋先生の日本史は覚えるのが大変やったけどよかった。共通テストの問題も、ほとんどサクナビ(土屋講師オリジナルのテキスト巻末付録)から出たし！共通テスト直前に一気に詰め込んだから大変やったけど。

受験を通して、感じたことや学んだと思うこと。

児嶋： みんなが自分のことを応援してくれていたことが嬉しかった。友達にも恵まれていたと思う。学校でも塾でも、一緒に頑張る友達がいたし。それはほんまに嬉しかった。受かったから言えることかもしれんし、マジでしんどかったけど、いろんなことを学べた気がする。時間の使い方とか計画性とか、工夫するということ、とか。二度とやりたくないけど、得られたものは大きかったと思う。めっちゃ不安やし、確実に伸びるとは限らんとて勉強し続ける、そういう苦労とか、普通に過ごしてたら味わうこともないと思うし。

青石： 直前期は、推薦用に科目数を減らしていい？って相談に来てくれたね。和大的推薦がうまくいかなかった時、京産に進学する覚悟があるなら、という話をしたけど。

児嶋： あの時は、捨てていい、って言って欲しかった！(笑)でも、伸びるかどうか、受かるかどうかはわからないけどやり続けるっていう経験を、もしあの時してなかったら、後々絶対苦しむと、今なら思う。これからの人生でそういう場面っていっぱいあるもん。それを乗り越えたことが自信になると思う。

最後に、後輩へのアドバイスをお願いします！

児嶋： 俺と同じことするな、と言ってあげたい！

青石： 勉強面では反面教師のところはあるかもしれないけど(笑)、部活とか…。

児嶋： 何事も意識的にやってほしい。部活では、できやんことをできるようにするための練習をすると思うけど、それと同じ姿勢とか意識を、勉強とか他のことにもつなげてほしい。部活は部活、勉強は勉強、って分けて考えるんじゃないで、例えば部活で培った集中力とか計画性は勉強にも通用するし、頑張ってきたことをその部分だけで終わってしまうのはもったいないと思う。自分の頑張ってきたことを活かして、無駄なく短期間で、ということを常に意識して過ごしてほしいです。

編集後記 ~インタビューを終えて~



5月のIH予選が終わったタイミングで部活を辞めるか、11月の選手権大会まで続けるか…難しい選択だったと思います。最後の大会、公募制推薦、和大的推薦そして共通テストと、11月以降、怒涛のように時間が流れ、弱音を吐くこともありましたが、決してへこたれず、目標に向かって努力を重ねてきました。志望理由書の作成や面接練習、そして最大の関門である共通テスト…やらなければいけないことだらけで、間に合うのか？と心配もしましたが、どれだけ疲れていても必ず塾で勉強して帰る姿を見て「完太ならきつとなんとかしてくれる！」という気持ちも持っていました。「険しい道」を選んだにも関わらず、第一志望の大学に見事合格。本当に嬉しいです！熱意が届きましたね。おめでとうございます。

児嶋くんはAC海南駅前校のムードメーカーで、最後の大会のタイミングでは他のメンバーは塾で勉強をしていたのですが、その時もみんな「完太どうやった?!」「完太頑張れ！」と塾からエールを送っていたことが思い出されます。「社長になりたい！」というのが口癖だった児嶋くん。その夢を実現するための第一歩、貴重な大学生活を思いっきり満喫してくださいね！ありがとうございました！

AC海南駅前校カウンセリングスタッフ 青石 千映

